ISBN978-4-7628-2695-5
C3037 ¥2000E

9784762826955

定価（本体2000円＋税）

1923037020003

リニューアル 総合的な学習の時間

文部科学省初等中等教育局 教科調査官◆田村 学
岐阜大学大学院教育学研究科 准教授◆原田信之 編著

北大路書房

リニューアル 総合的な学習の時間
文部科学省初等中等教育局 教科調査官◆田村 学
岐阜大学大学院教育学研究科 准教授◆原田信之 編著
北大路書房

表 6-7　カリキュラムにおいて取りあげられた教科横断的テーマおよびその目的（Opetushallitus, 1994; 2004）

1994年カリキュラム	2004年カリキュラム
国際理解教育 異文化に対する知識と理解を深めること，すべての人の尊厳と人権を保障すること，平和を構築すること，世界の富の公正な分配を行うこと，持続可能な開発を促進すること目的とする	**文化的アイデンティティと国際性** 子どもたちが，フィンランドおよびヨーロッパの文化的アイデンティティの本質を理解し，自身のアイデンティティを確立すること，異文化理解と国際化を促進することを目的とする
環境教育 生物の多様性を保持し，持続可能な開発を推進するために，子どもたちの環境に対する価値や意識を涵養し，責任をもった行動をとることができるよう導くことを目的とする	**環境・福祉・持続可能な未来への責任** 環境と人類の幸福のために行動し，持続可能な未来のために貢献できる市民を育成することを目的とする
消費者教育 知識と分別をもった消費者になるよう，授業や学校生活を通じて，消費者としての判断を導く要因や，選択の結果が自分の人生や環境に与える影響について，批判的に検討する力を育くむことを目的とする	
交通安全教育 交通安全に関するルールや，安全を確保するための知識や技術，さらには，乗り物が自然や，経済，雇用に与える影響について学ぶことを目的とする	**安心と交通安全** 子どもたちが身体的・精神的・社会的視点から安心と安全について理解することを促し，責任をもって行動するよう導くことを目的とする
健康教育 健康を維持・促進するための基本的な知識と技能，能力を身に付け，健康増進に努める態度を育てることを目的とする	
家族教育 青少年の成長を支援し，家族生活の基盤をつくることを目的とする	**人としての成長** 子どもたちの全人的な発達およびライフ・マネジメントに必要な技能の発達を支援していくことを目的とする
情報通信技術 コンピュータや基本的なプログラムを使用するための基礎知識と新しい知識や情報を獲得する手段を身に付けさせること，および，コンピュータを使うことに対する興味関心を育むことを目的とする	**人間と科学技術** 子どもたちに，科学技術と人間の関係性および日常生活における科学技術の重要性を理解させることを目的とする（機材や設備等の操作方法等から，これらにかかわる倫理的・道徳的問題までを含む）
メディア教育 創造性教育やメディア教育を行うことを目的とする（マスメディアに関する教育もその一部であるが，その中核をなすのは，母語と芸術系の教科や，外国語や音楽，歴史，公民などの関連教科である）	**コミュニケーションとメディア・リテラシー** 表現力や対話力を高めること，メディアの位置づけと重要性に関する認識を深めること，メディア・リテラシーを高めることを目的とする
起業家教育 起業家精神の出発点である，主体性，創造性，根気などを育むことを目的とする	**参加的市民性と起業家精神** 社会を構成するさまざまな主体の役割を認識し，市民として活動するために必要なコンピテンシーと起業家精神を身に付けることを目的とする

ための受け皿ともなっていることがわかる。

近年，自治体や学校が，既定の，あるいは新規に開発したトピックを活用して，特殊化・個性化に活用する事例も出てきている。実際，起業家教育や，メディア・リテラシー教育など，先駆的な事例として，海外などにも紹介されているものも少なくない。

一連の取組は，1990年代の教育改革により進められた現場への権限委譲，さらには，それにより導入され，浸透しつつある学校を基盤とするカリキュラムの開発の進展とともに，現場に根づきつつある。

6節　韓国

1. 教育課程（学習指導要領）における位置づけ

韓国の学校教育の基本は，日本の学習指導要領に相当する「教育課程」に記載される。現在は1997年に改訂された「第7次教育課程」が実施される一方で，7度目の改訂にあたる「2007年改訂教育課程」が明らかにされ，実施の準備段階にある。そのため，ここでは，まず第7次教育課程に基づき，日本の「総合的な学習の時間」に相当する「裁量活動」の特徴について考察する。その上で「2007年改訂教育課程」における改訂内容を紹介する。さらに，学校現場での実践例として，2つの中学校の裁量活動を紹介することを通じて，総合的な学習の新たな展開への課題を提起したい。

(1) 第7次教育課程における裁量活動

①時間配分の特徴

「第7次教育課程」は国民共通基本教育課程と高等学校選択中心課程から構成され，国民共通基本教育課程は初等学校6学年，中学校3学年，高等学校1学年の計10年間で編成，運営される。その内容は教科，裁量活動，特別活動で構成され，上述したように，裁量活動が総合的な学習の時間に対応する。

まず裁量活動に配当される時間数を紹介しよう。韓国は年間34週が基準だが，初

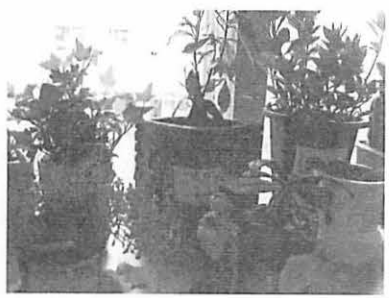

図 6-1　創意的裁量活動「命を育む」より

表 6-8　裁量活動に配当される時間数

学年区分	初等学校						中学校			高等学校		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
裁量活動	60	68	68	68	68	68	136	136	136	204	選択科目	

等学校では1学年から実施され，配当時間は1学年が60時間，2学年以上が68時間と日本より少ない（表6-8）。

ただし，1・2学年では，入学直後に「私たちは1年生」（8時間），その後は「賢い生活」（理科＋社会），「楽しい生活」（音楽＋図工），「正しい生活」（道徳），あわせて4種の統合活動が実施される。低学年における総合性と体験・活動の重視は，日本以上ともみなせる。

中学校は各学年共通に136時間，高等学校は国民共通基本教育課程の最終学年になる1学年に204時間が配当される。したがって，中学・高校の裁量活動は，日本の総合的な学習よりも時間数が多いが，より明確な相違点は，活動内容と時間配分の構成基準が教育課程に明記されていることである。

②構成上の特徴

韓国の裁量活動は「教科裁量活動」と「創意的裁量活動」という性格の異なる2つの活動によって構成され，その位置づけも学校段階で異なる。教科裁量活動は「国民共通基本教科の深化・補充学習」と「選択科目学習」に分けられるが，選択科目は中学・高校の教育課程であって初等学校にはない。

初等学校では「教科の深化・補充学習」よりも児童の「自己主導的学習能力」を促進させる創意的裁量活動の重視が教育課程に明記される。また，「主題探求，小集団共同研究，学習方法の学習，統合的教科横断的学習など，多様な教育プログラムを学校と教師，児童の要求と必要にしたがって編成し，選択的に運営する」とも記載される。初等学校の裁量活動は日本の総合的な学習と類似した実践を志向しているといえよう。

他方，中学校では教科裁量活動が重視され，136時間中102時間（週4）が充てられ，創意的裁量活動には34時間（週1）である。教科裁量活動は，その名称が示唆するように，学習活動としては通常の教科学習の延長にある。加えて，ここでも日本と異なり，扱い方が明記される。すなわち，選択科目として，「漢文，コンピュータ，環境，生活外国語（ドイツ語，フランス語，スペイン語，中国語，日本語，ロシア語，アラブ語）」が示され，この学習に時間配分を優先し，余った時間を国民共通基本教科の深化・補充学習の当てることが求められる。

さらに，創意的裁量活動においても，初等学校と異なり，子どもたちの自由な活動を求める「自己主導的学習」にかわって，「学校の独特な教育的必要，学生の要求」に対応した教科横断的内容の教育を意味する「汎教（범교）」が重視される。

高等学校では，教科裁量活動の年間履修単位数を10単位にして，国民共通基本教科の深化・補充学習に4～6単位，選択中心教育課程の選択科目に4～6単位を充てることが明記される。さらに，創意的裁量活動も含めて，生徒の適性と進路を考慮することから，11・12学年（高校2・3学年）の選択中心教育課程との連携を求めている。

(2) 2007年改訂教育課程での位置づけ

①時間配分の変化

10年にわたる第7次教育課程の実施を踏まえて発表された2007年改訂教育課程の裁量活動おける最も明確な変化は，次の表6-9が示すように，時間配当の減少である。

初等学校は第7次教育課程と同一だが，中学校は136時間から102時間に，高等学校は204時間から102時間に減少した。その理由は明記されないが，2007年改訂は学校週5日制全面実施が前提のため，総時間数の減少を裁量活動の時間数削減で対処したことが想定できる。日本と同様に，教科学習という意味での学力重視への転換を反映した改訂ともみなせる。

ただし，韓国の場合は，より高度な学習を意味する「深化学習」よりも「能力と適正，進路を考慮し，教育内容と方法を多様化」することを目的にした，「水準別教育課程」を重視する改訂内容になっている。この点は，裁量活動の各学校段階の構成上の改訂部分においても確認できる。

②構成上の変化

2007年教育課程は，裁量活動が教科裁量活動と創意的裁量活動で構成される点は第7次教育課程と同じである。ただし，そのことを明記した部分のあとに，「裁量活動の領域別履修時間（単位）数は，学校が市・道教育庁の指針に従い，編成する」との文が加えられた。第7次教育課程においても，裁量活動は全国一律ではなく，市・道教育庁の方針にしたがって実施されてきた。この方向をより明確にするものといえよう。

この点を代表に，2007年改訂教育課程の裁量活動に関する記述内容から，10年間の実施に基づいて学習のありかたをより明確にする意図が読み取れる。例えば，初等学校では「創意的裁量活動として運営」と明記される。他方，中学校では「選択科目学習時間に中心をおいて運営」が，また高等学校でも「選択中心教育課程の選択科目学習，または国民共通基本教科の深化・補充学習として運営」が明記される。初等学校は子どもたちの学習への意欲や態度を培う自由な活動を，中学校は時代の変化が求

表 6-9　時間配当の変化

学年区分 ＼ 学年	初等学校						中学校			高等学校		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
裁量活動	60	68	68	68	68	68	102	102	102	102	選択科目	

める新たな教育課題の学習，高等学校は実質的に既存科目の補充にと，裁量活動の目的が実態にそうかたちで明確にされたといえよう。

その意味で，日本の総合的な学習との比較で類似しているのは，初等学校のみになったかに見える。だが実際に個別中学校で実施される教育課程運営計画や活動実践をみると，むしろ中学校の裁量活動にこそ，日本の総合的な学習が参考にすべき課題を見いだすことができる。

2. 公立中学校の実践にみる裁量活動の特徴：大田市立ドゥリ中学校の学校教育課程運営計画から

①裁量活動時間配当表と選択科目学年別クラス編成表

まず，大田市立ドゥリ中学校の2007年度『学校教育課程運営計画』から裁量活動の時間配当表を紹介しよう（表6-10）。

ドゥリ中学校は，2006年度に開校し，2007年度は2学年のみだが，裁量活動は前節で確認したように，教科裁量活動に102時間，創意的裁量活動に34時間配当されている。また教科裁量活動には選択科目に34時間，基本教科深化・補充活動に68時間が，創意的裁量活動には教科横断的な汎教に24時間，自己主導的学習に10時間があてられる。

選択科目は，次の学年別編成表にあるように，日本語3クラス，漢文4クラスが用意される。生徒は日本語と漢文のいずれか1つを選択し，毎週1時間，クラス単位で学習する（表6-11）。

国民共通基本教科の深化・補充学習では，1年生には英語が必修，科学と道徳が選択で，2年生には国語と英語が必修として用意される。これらの学習は各教科の時間割と統合して，学級単位に水準別（深化と補充）グループ編成により行われる。

表6-10　裁量活動時間配当表（大田市立ドゥリ中学校，2007年度『学校教育課程運営計画』を一部改変）

区分	教科裁量活動		創意的裁量活動	
	選択科目学習	国民共通基本教科深化・補充	教科横断的学習「汎教(범교)」	自己主導的学習
配当時間	102時間		34時間	
	34時間	68時間	24時間	10時間

表6-11　選択科目学年別クラス編成表

学年＼学級	1	2	3	4	5	6	7
1	日本語	日本語	日本語	漢文	漢文	漢文	漢文
2	日本語	日本語	日本語	漢文	漢文	漢文	漢文
3	・	・	・	・	・	・	・

②創意的裁量活動編成表と担当教師

次に，創意的裁量活動の編成表を紹介しよう（表6-12）。

教科横断的な汎教は，1年生対象に性教育，人性教育，進路教育，2年生対象に環境教育，安全教育，統一教育が準備され，それぞれ8時間が充てられる。教材には，学校で作成したものと大田市教育庁による指導資料が用意される。また，自己主導的学習としては，個人別または小集団単位に独自の課題に基づく学習活動が想定されている。そしてこれらは，学級単位に実施されるが，指導は担任ではなく裁量活動を専門に担当する教員が行う。ドゥリ中学校では選択教科漢文の専任教員が担当する。選択教科日本語は，国史教育が専門だが日本留学経験と日本語教育資格をもつ教頭が担当している。

このようにドゥリ中学校の創意的裁量活動は，教科裁量活動と同様に，学習形態では通常の教科と重なる部分が多い。だが学習内容では，専任教員もしくは高い能力と資格をもった教員とともに選択科目が配置されていることに注目したい。時代の変化に即応するための教科横断的学習においても，テーマと教材が明確にされ専任の指導教員がいることを重視したい。これらは，子どもたちが生きる現在と未来の要請に応えるために，既存教科の枠組みを超える学習実践の具体化に必要不可欠な条件として評価すべきと考える。

③大田市立外三中学校の創意的活動「命を育む」から

裁量活動の豊かな可能性を示すユニークな実践を紹介しよう。大田市立外三中学校の創意的裁量活動「命を育む」である。

「1人が1つの命（生命体）を育てる」ことにより，命の尊さを理解し，動植物だけではなくまわりにあるすべてのものに，愛情と配慮の心をもつようになることが活動の目的である。新学期に活動の仕方を指導し，次のような順序で進められる。

①生徒1人ひとりが自分で育てる植物や動物を学校にもってきて，夏休み・冬休み以外は教室の中で育てる。

②生命体（動植物）の特徴を調べ，対話録を作成する。

表6-12　創意的裁量活動編成表

領域区分	プログラム名			時間配当		時間運営	教材	備考
	1学年	2学年	3学年					
汎教 범교（教科横断的学習）	性教育（性暴力予防教育含む）	環境教育		8	24	定時制	学校作成中学校創意的裁量活動指導資料	
	人性教育	安全教育		8				
	進路教育	統一教育		8				
自己主導的学習	個人別または小集団編成プロジェクト課題			10		10	10	

③対話録を学校のホームページに掲載する。
④ポスターや絵などの大会を開き，優秀な作品に賞を与える。

実際にどのような活動が行われているかを知るために，ホームページに載せられた対話録を２つ紹介しよう。

１年生―私のペペへ
こんにちは。／ペペに会ってから２か月が経ったよ。／まだ花は咲いていないけどすくすくと育っていくあなたを見ると気持ちがよくなるの。／今まで育てた植物はよく枯れてしまったけどこれからは大事にしていきたいな……。／この間，美術の時間にあなたを描いたけど明暗処理がうまくできなくてごめんね。／それじゃ，またあしたね！／お休み！

２年生―物語15番目
私：お～い。／生命体：なに？／私：花が一本しか咲いていないね？／生命体：そうよ，水が足りないの……。／私：そうか？　ごめんね！　ここ最近急がしくて，すっかり忘れてたんだ。／生命体：まだ大丈夫！　でもこれからは気をつけてね！／私：わかった。明日からは水いっぱいあげるね！／生命体：ありがとう！　でもあまり多いのもよくないのよ！／まだお花は１本しか咲いていないけどがんばっているミンドゥンちゃんがかわいかった！／あまりいろいろやってあげられなくてミンドゥンちゃんに悪いと思ったけど明日からは私もがんばるから枯れないでね！　よろしく！

活動を指導する日本語教育担当の都京姫先生の評価も紹介しておこう。

最初は関心がなくても，自分の関わり方で生命体の変化することを知って愛着を持つようになり，自分が必要な存在であることに気づきます。時間が経つとクラスの他の生命体にも関心や愛情を持ち，命の尊さや大事さを理解していくようになります。

国と文化を超えて，命あるものとの個性豊かな体験活動の重要性を示す２つの対話録と都京姫先生の評価である。さらに，だれもが自由に見ることができる学校のホームページに掲載され，活動実践の表現に賞を与えることにも注目しておきたい。学習の内容や方法だけでなく，評価においても，子どもたちの表現力と情報環境を積極的に活用し，学校の外の世界に開かれること。子どもたちが現実に生きる未来からの要請に応じた問題解決力能力の育成を目的とするなら，避けることができない実践例と位置づけたい。

註）
★１　英語・数学・理科の３科目。

★２　技術（デザインと情報，　　歴史・地理・音楽・美術・体育・現代外国語（中等学校のみ）・公民の８科目。